

市民参加による森林づくりのリーダー的役割を担う 人材を育成した事例

事業名：特認事業（森林・林業体験活動支援事業）

市町名：広島市

取組のきっかけ・経緯

- ・市民参加の森林づくりの先導的役割を果たすボランティアを育成するため、森林に関する知識や林業の技術習得に係る「もりメイト育成講座」を開催している。
- ・この講座は、平成8年度から継続して実施しており、講座の修了生は、令和元年度末現在で、延べ666人となっている。

取組の内容

- ・事業主体：市民参加の森づくり実行委員会
- ・実施場所：広島市安佐南区沼田町大字阿戸ほか
- ・事業量：23人(修了生)
- ・事業費：855,516円
(うち、県交付金143,000円)
- ・実施期間：令和元年6月22日
～令和2年3月7日



講座の特徴・効果

- ・下刈りや間伐など、林業に関する一連の作業が学べるカリキュラムで、森林ボランティア活動に取り組もうとしている方にとって、役立つものとなっている。
- ・平成29年度から、森林整備に関わる人材を育成するため、広島市内だけでなく、広域都市圏内の在住者も対象として実施している。
- ・圏域内の森林ボランティアが増えることにより、森林整備や森林に関する理解の醸成が促進された。



中学校と連携した取組事例

事業名：森林・林業体験活動支援事業

市町名：安芸高田市

事業の目的

・ミツマタは和紙(特に紙幣用紙)の原料として、古くから栽培されてきた。しかし、最近では大量生産が容易な西洋紙に市場を奪われ減少傾向を続けている。このため、我が国固有の良質な製紙原料であるミツマタの生産を復活させる植樹を行う。

甲田の地において、卒業証書用紙や紙幣用紙に活用する和紙を生産するミツマタを協働で植樹する活動を通して郷土を思い、夢を育み、向上する人づくりを目指す。

取組の内容

- ・事業主体：甲田町資源を守る会
- ・共催：安芸高田市
- ・協力：公益財団法人 日本レスリング協会
広島県レスリング協会
- ・実施場所：安芸高田市甲田町
- ・業務金額：300,000円
- ・事業量：甲田中学校1年生30名
- ・日時：令和3年3月17日

・甲田中学校生徒により、和紙原料となるミツマタ苗木200本を協働で植栽する。
・山鍬やスコップで植穴を掘り、苗木を植え、根元を踏み固め、竹支柱を立て、給水をする。
将来的には6haの山林にミツマタを植栽し、広島県最大の一大群落を目指し計画を進める。

今後の展開

・元気な森を次世代に残していくため、ニホンジカの食害にあわない樹種であるミツマタを中心に、地元中学校と連携し毎年植栽を行い、広島県最大の一大群落を目指し計画を進める。

取組の感想

【良かった点】

- ・植樹会を通じて、森林の大切さや維持していく上での大変さを学んでもらった。
- ・この日行ったイベントの感想や思いを全員レポートにして中国新聞「ヤングスポット」のコーナーへ投稿をした。



森の達人研修会(森林整備の基本知識と道具の 使い方の講習会)を開催した事例

事業名: 森林・林業体験活動支援事業
市町名: 呉市

取組のきっかけ・経緯

・森林整備の基本知識と道具の使い方の講習会を開き、里山整備をしてもらえる環境を作っていく。

今後の展開

・森林ボランティア等の森づくり活動参加へつながるように研修をしていく。

取組の内容

- ・事業主体: 呉市
- ・実施場所: グリーンヒル郷原
- ・業務委託先: (一社)広島県森林協会
- ・業務量: 1日 (講師2人, 参加者13人)
座学 森林整備に必要な基本知識
実習 刈り払い機, チェンソーの実演
スウェーデントーチ製作
- ・業務金額: 451千円
- ・業務期間
契約期間: 令和3年10月22日～12月28日
研修日: 令和3年11月20日

【活動の様子】



取組後の感想

【良かった点】

- ・昨年のアンケートの要望から、実習の時間配分を見直し、チェンソーの使い方についてより深く学んでもらうことができた。
- ・新たな実習としてスウェーデントーチの作製を組み入れたこともあり、すぐに定員に達した。

【活動の様子】



市内小学校での森林に関する体験活動の事例

事業名：森林・林業体験活動支援事業

市町名：竹原市

取組のきっかけ・経緯

- ・広島県産の木材の利用促進や、森林を守り育てる担い手の育成促進の一環として、小学校で作りたい物の要望を聞いて、県産木材で作成された製品の組み立てを小学生に行ってもらった体験授業を実施している。
- ・令和3年度は小学校6校と学園2校が参加し、紙芝居により森林(人工林)について学んだ後、製品の組み立てを行った。

取組の内容

- ・事業主体：竹原市
- ・実施期間：令和4年1月～2月
- ・実施場所：各小学校及び学園
- ・制作物：移動式掲示板、パンフレットラック、丸椅子、入場・退場門、木製プランター入れ、本棚
- ・部材制作者：太田川森林組合
- ・業務金額：1,738千円



今後の展開

- ・毎年、この事業を続け、森林についての理解を子どもたちから深めていき、山の大切さを感じてほしい。

取組後の感想

【良かった点】

- ・子どもたちが、木に触れ合い、楽しそうに組み立てを行っていた。木のおいを嗅ぐ機会も少なくなっており、良い授業だと感じた。子どもたちからも「楽しかった。良い匂い。」などの声が上がっていた。学校も、欲しいものを依頼しており、過去に制作したものについて、備品として大切に使用されていた。



里山林の整備を通し、子どもたちに自然と共生する 楽しさを伝えた事例

事業名：森林・林業体験活動支援事業

市町名：廿日市市

取組のきっかけ・経緯

・廿日市市内の団体から、子ども達を対象に、環境や生き物への関心を高め、自然とともに生きる楽しさや工夫が身に着けられるような活動体験を行いたいとの要望があったため、活動に対して補助を行った。

今後の展開

・これまでの活動の様子をイベントや広報媒体で広く発信し、より多くの人に廿日市市の自然環境や森林での活動に興味を持ってもらえるよう啓発していきたい。

取組の内容

- ・事業主体：みやうち冒険あそび場の会
- ・実施場所：廿日市市宮内字高通
(花見山森のあそび場)
- ・事業量：活動回数7回
参加者数160名
- ・実施内容：里山林整備体験(伐採・植樹)
環境学習
- ・業務金額：460千円
- ・事業期間：令和3年4月26日～令和4年3月8日

取組後の感想

【良かった点】

- ・自然の中で遊ぶという体験を通して、自然環境が維持され、荒れた山が里山化していく実証を重ねることができた。
- ・予算が確保できたため、伐採だけでなく植樹の体験を実施することができ、里山林整備の一連の流れについて体験的に学ぶことができた。

【悪かった点】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、予定していたイベント(4回)が中止となった。

【活動の様子】



【活動の様子】

